

地元を知るためのカギ

地元特有の地域学習から学ぶ体験学習のおもしろさ

村上知真

知多半島



- おおまかに5市5町からなる半島。
- 半島北部沿岸には工業団地が多く分布。一方、南部は港が多く残っている
- 大きな川が無い知多半島では古来より水不足であった。
- 1961年に岐阜県から水を引く愛知用水の完成により水の需要を満たせるようになった歴史がある。

地元の地域学習（自分の時）

- ・地元では、知多半島の水不足の歴史から地域学習を学ぶ傾向がありました。

小学校	地域学習用の教科書があり、水不足の歴史を学ぶ。民族博物館の見学。浄水場の見学等
-----	---

- ・半島の小学生は全員同じ教材を使用して地域学習を行っていたため、中学校でも話が通じていた。

地元の地域学習

- ・ 記憶に残った授業としては、教科書を使って愛知用水の歴史を学ぶ授業が定期的に行われていたことは特に記憶に残っています。
- ・ 授業のなかで資料動画もあり、それを使った学習をした覚えがあります。



私の視点では、教科書を軸にした地域学習は記憶に残る学習が多いと考えます。

地元の同級生への地域学習をした記憶が残っているかの調査

- A君⇒「教科書を使ったことも、資料動画を見た覚えもある。それは、地域で活躍した人たちのドキュメントに興味があったから記憶に残っている。」
- B君⇒「あまり覚えていない。歴史資料館にいったことは覚えているが、あまり楽しかった覚えがない。」

地元の地域学習の長所

●長所

- ・教科書があることで教師側としては地域への理解を深めることができ、授業の進行を計画することができる
- ・小学生としては、資料動画を通じた授業は理解がしやすい。

地元の地域学習の短所

- ・教科書では、資料の更新が難しく、再編にもコストがかかる。
- ・資料館などの見学は、小学生のなかでも賛否両論で、興味をもって学ぶとしては少しハードルが高い。

地域学習方法の転換

- 地域学習をより良くするために必要な形
 - ・ 小学生が興味をもって学ぶことができる形
 - ・ 地元を学ぶことの楽しさを伝えやすくする形
 - ・ 体験という形
- 情報化技術の活用
 - ・ 資料の更新などを情報化技術の利用で効率化
 - ・ 地域の学校間での地域学習の共有

これからの地域学習

● 地元独自の地域学習用教材

- ・ 地域学習において専用教材を使用するというのはとても良い方法であると考えます。
- ・ 市町村単位で共通の地域学習を行うことができ、他の小学校との地域学習の共有にも役立てれる。

これからの地域学習

●歴史資料館の活用

- ・実際に、展示物に見て触れて学ぶことができることが最大の魅力であるが、どうしても人によってはつまらないものとなってしまう。
- ・しかし、私は資料館の見学はとても記憶に残り、おもしろい体験であったと思っています。

⇒人それぞれの興味関心をどこまでくみ取るかが重要。

今回の調査から

- ・ 私は、地元での地域学習の記憶が結構残っており良いものであったと思ったので地元の地域学習の特徴からより良い地域学習の進め方を見つけるという形にしました。
- ・ 地域学習の教材を作るというのはやはりとても良い方法で、地域学習の理解を深められるものであると考えます。

参考文献

- ▶ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%A5%E5%A4%9A%E5%8D%8A%E5%B3%B6>
- ▶ <https://www.city.chita.lg.jp/docs/2021030500030/>
- ▶ 「かがやく大愛知」 小学校教科書